

矢田 酪農家 益子賢さん（六〇代）

※音声記録がないため、聞いた内容をまとめさせていただきました。

水害の多い土地

父親がしていた酪農を引き継ぎ、五〇年間酪農をしています。

当日は雨はそれほど降らなかったです。自宅近くは川幅が狭いため、何度か水があふれているものの、床まで来たのは今回が初めてです。

牛を落ち着かせるために牛舎で一晩

当日は午後から台風に向けて牛舎で準備をしていました。夜七時頃、一気に水が来ました。いつも川岸のブロックで水の量や上がり方を見ているのですが、今回は一時間で一メートル上がりました。牛を落ち着かせるため牛舎にいましたが、水は牛舎で一メートル八〇センチまできました。牛舎が水圧で強く揺れました。牛は犬かきのように首を出して水に浮いていましたが、そのうちサッシが割れて水とともにゴミが流れてきました。牛はゴミが顔に当たって嫌がりませんが、下を向くと水に浸かってしまいます。当時牛は二八頭いて、八頭が死亡しました。一頭は水に流されて見つから

っていません。

近所の方が呼んでくれて、朝四時頃、消防が救助に来ました。牛たちは水が来ると嫌がって暴れるのですが、私がいると落ち着くので、避難するつもりはありませんでしたが、消防の人のボートで一度離れました。

水の引きは早かったです。自宅は水びたしになりましたが、牛舎の対応が優先なので、自宅は親戚に任せて牛舎の片づけをしました。水が来る直前に搾乳をしたため、乳房炎になる牛はいませんでした。

酪農家 益子隆嗣さん（三〇代）

避難が難しい

今回は水の上がり方が速く、牛の避難はできませんでした。トラックの手配や人員不足という問題があります。

当日、家族（奥様とお子さん）は避難しましたが、私は父親と牛舎に残りました。自宅は川のそばで、川の階段が一二段あるので台風のときはいつもその数で水位を見ています。家族が避難するときはすでに道路が冠水していて、どこが道かわからない状態でした。いつもの記憶と勘で車を運転して避難しました。

牛は水を怖がって暴れるので、私が声をかけて落ち着かせました。普段世話をしているので、声をかけると牛も安心して落ち着きます。はじめは足首くらいでしたが、どんどん水が増えるにつれ、柵に一段ずつ上がり、最後は梁に上りました。牛は犬かきのような状態で浮いていました。丸太が流れてきて牛舎に当たり揺れました。そのうちサッシが割れて、ごみが水と一緒に入ってきました。

朝四時頃に消防に救助され、四時半ころ戻ったら水はほぼ引いていました。

被災後は親戚や酪農仲間力を借りた

補助金申請のために片付け前に写真を撮りました。被災の次の日からは酪農仲間が来て、片付けを手伝ってくれました。そのため牛舎は一週間で再建できました。ただ古い牛舎はまだ片付けができていません。

自宅を新築して一年半でした。今も外壁に水の跡が残っています。外の蔵は水で流されて位置が変わっていました。床下は、常総市での浸水後の子供への健康被害の例を聞いて、リフォームをしました。二階は無事だったので、避難所へは行かず、片付けの間は二階で生活しました。一階は使えないので、お風呂は温泉、洗濯はコインランドリー、食事はパンやカップラーメンでした。お金がたくさんかかったし、パンやカップラーメンは



サッシの割れた牛舎

たくさん食べたのもう食べたくないです。川の整備をもっと早くしていれば被害は違ったのではないかと。川の内側にたくさん竹が生えていて、流れが悪くなっていました。堤防の計画がありますが、危ないところから作ってほしい。この辺りはまだ先のようにです。ただ、堤防が完成した後、もし水が入ったら今度は出ていくところがないか心配が残ります。また水が来たならこの辺りは人がいなくなるのではない



水が引いた後の牛舎内

でしょうか。私も酪農は止めるかもしれませんが。